

講座名（専門科目名）	腫瘍感染免疫学(国立病院機構近畿中央呼吸器センター、臨床研究センター、連携大学院)	教授 氏名	井上義一、安宅信二
学生への指導方針	臨床研究センターが併設された我が国屈指の呼吸器疾患専門病院で難治性肺疾患克服のためのトランスレーショナルリサーチ。		
学生に対する要望	難治性肺疾患として、びまん性肺疾患、慢性呼吸器感染症、肺癌等、臨床に沿った研究。		
問合せ先	(Tel) 072-252-3021 (Email) inoue.yoshikazu.nt@mail.hosp.go.jp	担当者	井上義一
その他出願にあたっての注意事項等			

(以下教室紹介)

国立病院機構（NHO）近畿中央呼吸器センターは、日本でも有数、最大級の呼吸器疾患専門の高度専門医療施設であり国際的にも評価され、臨床研究センターが併設されている。連携大学院は臨床研究センター内に設置され診療部門とも密接に連携する。教授二人（井上義一：びまん性肺疾患、難治性希少肺疾患、安宅信二：呼吸器悪性腫瘍）准教授一人（露口一成：感染症）が指導にあたる。臨床に密接したトランスレーショナルリサーチを実施。全国の NHO 病院の呼吸器疾患（結核を含む）に関するネットワーク（呼吸器ネットワークグループリーダー施設）や厚生労働省、AMED、肺癌、感染症の各種共同研究グループ、国際的研究ネットワークを通じた共同研究を実施。大阪大学と連携を密にし共同研究を積極的に実施。

以下の研究を実施中：

- 1) 肺胞蛋白症：病態解明と、難治化要因の解明。バイオマーカーを用いた非侵襲的診断法の開発と新たな治療の開発。定量 CT を用いた画像解析。抗 GM-CSF 自己抗体研究をモデルに、自己抗体の形成メカニズム。rhGM-CSF 吸入療法開発。
- 2) リンパ脈管筋腫症：病態解明と、それに基づく新たなバイオマーカーを用いた非侵襲的診断法の開発、分子標的治療の開発。定量 CT を用いた画像解析。
- 2) 間質性肺疾患、肺線維症：臨床、画像、病理、分子診断に基づく新たな分類と治療法の開発。新たなバイオマーカー開発。抗線維化療法の開発、リモデリング関連細胞と間葉系細胞の相互作用と分子制御。
- 4) 肺癌患者における次世代シーケンサーを用いた肺癌関連遺伝子研究。Liquid biopsy による各種研究。各種臨床試験の実施と高齢者の診療、緩和医療に関する研究。
- 5) 抗酸菌ゲノム解析と分子疫学。抗酸菌症標準的治療法の開発。
- 6) 多剤耐性結核に対する新規 DNA ワクチン開発。